



こんにちは♪

民主苦小牧号外
2026年
1.11
No.1124

日本共産党市議会議員



小野寺ゆきえです!

26年は[民主主義]の軌道を正す年に

みなさん、今年もよろしくお願いいたします。1月1日の『北海道新聞』と『朝日新聞』の社説のテーマは[民主主義]でした。なぜでしょうか。その背景には、トランプ大統領と高市首相の存在が影響しているようです。

『道新』は、トランプ政権が誕生した2016年から「民主主義の変調が始まった」と主張しています。『朝日』は、トランプ政権が再登板した昨年、米 국무省と大使館のホームページから「民主主義とは何か」「全ての市民が法の下で平等であること、多数者の意見を尊重し、少数派の基本的人権を擁護すること」などと記載したページが消えたと指摘します。[民主主義]を封印したのでしょうか。

1月3日、アメリカはベネズエラを攻撃しました。そのうえベネズエラ大統領夫婦を拘束してアメリカの司法

が裁くと言い、アメリカがベネズエラを運営するとまで宣言しました。まるで植民地支配であり、許されない暴挙です。攻撃理由についてアメリカは、「ベネズエラの民主主義の回復と情勢の安定化」と言いますが、トランプ大統領の行為には[民主主義]のかけらもありません。

高市首相は、トランプ大統領の行為を非難できませんでした。異常な「アメリカいいなり」ぶりです。高市首相にも[民主主義]の意識は全くありません。

そのうえ高市首相は、排外主義思想を持ち、外国人と国民の分断を煽っています。ほかにも正規雇用と非正規雇用の分断、現役世代と高齢者の分断、富裕層と低所得者の分断などを蔓延させ、暮らしが大変なのは政治の責任なのに、外国人や国民に責任があるかのように「自己責任論」を押し付けています。そして『朝日』は、「民主主義の大敵は分断だ」と指摘しています。

日本共産党にとって[民主主義]は大切なものです。1922年に日本共産党は誕生しました。当時日本は、アジアの国々を侵略し戦争へと突き進んでいた時代だったため、平和で民主的な日本をつくろうと活動を開始したのです。そして、国民の運動とたたかいで天皇制の時代から[民主主義]を勝ち取り、これまで育ててきました。

『道新』は、「私たちは次世代にまっとうな社会を残せるか否かの分岐点立つ。[民主主義]の軌道を正し、針路を定め直す年にしたい」と呼びかけています。私も、今年はそんな1年にするために頑張ります。